

HbA1c 値 9%以上で認知症リスク高まる

高血糖は認知症発症のリスクになるとされているが、2型糖尿病患者が認知症リスクを下げるためにどの程度、血糖コントロールをすればよいのかは不明である。本研究では、累積血糖曝露と認知症との関連について検討した。

対象者は、南カリフォルニアの統合医療システムに登録された50歳以上の2型糖尿病患者で、HbA1cを2回以上測定し、追跡期間が3年以上の253,211例（平均年齢61.5歳、男性53.1%）とした。平均追跡期間は5.9年であった。対象者をHbA1c値が6%未満、6-7%未満、7-8%未満、8-9%未満、9-10%未満、10%以上である割合に基づいて分類した。解析の結果、測定したHbA1c値の50%超が9-10%未満または10%以上であった者は50%以下であった者と比べて認知症リスクが高かった（9-10%未満の調整ハザード比1.31、10%以上の同比1.74）。これとは対照的に、HbA1c値が6%未満、6-7%未満、7-8%未満が50%超の者は認知症リスクが低かった（6%未満調整ハザード比0.92、6-7%未満の同比0.79、7-8%未満の同比0.93）。

したがって、HbA1c値が9%以上である期間が長い2型糖尿病患者で認知症リスクが最も高くなることが示された。この結果は、2型糖尿病患者に現在推奨されている緩めの血糖目標値を支持するものである。

出典：Journal of the American Medical Association. 2023; 80(6): 597-604.